

社会貢献活動

企業理念の根本哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、本業を通じた活動はもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みをつくり、地域に根差した活動を続けています。

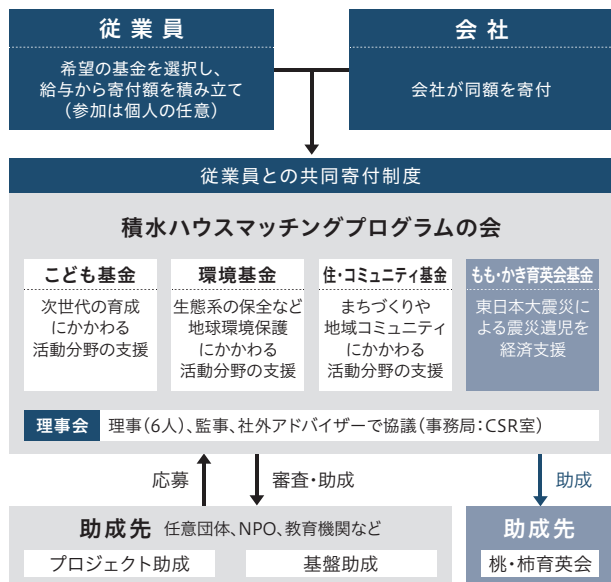
従業員と会社の共同寄付制度 「積水ハウスマッチングプログラム」

当社は、従業員と会社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」(会員数約3500人)を2006年度に開始し、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動を担うNPOなどの団体を支援しています。この制度は、従業員が給与から希望する金額(1口100円)を積み立て、それに会社が同額の助成金を加えて寄付する仕組みです。「こども基金」と「環境基金」の二つの基金をはじめ、2011年には東日本大震災による震災遺児を経済支援する「桃・柿育英会」(実行委員長:建築家安藤 忠雄氏)を寄付先とする「もも・かき育英会基金」を設置。そして2015年には制度創設10年を節目に「住・コミュニティ基金」を新設しました。

2015年度は「こども基金」12団体(プロジェクト助成11団体・基盤助成1団体)に1218万円、「環境基金」13団体(プロジェクト助成8団体・基盤助成5団体)に1060万円、合計25団体2278万円の助成を実施。また「もも・かき育英会基金」では、2015年度に1340万円(累計:5540万円)を寄付。これまでに延べ200団体に2億円を超える助成を実施しています。



■「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



「こども基金」助成団体コメント

「水と電気を守る子どもたちの命を支える未来」

認定NPO 法人アジアチャイルドサポート 代表理事 池間 哲郎氏

ミャンマー南西部のエヤワディ地域で発電機付き大型深井戸とトイレの建設を行っています。ミャンマーの農村部では、水道や電気などのインフラが整備されておらず、子どもたちの健全な成長を妨げる大きな要因にもなっています。水を媒介とする感染症や遠い水源への水くみによる学校への未登校、夜間の事件・事故などから子どもたちの命を守り、成長を支えるための大切な支援として事業に取り組んでいます。

ミャンマーの子どもたちは、安全な水が得られることへの感謝や学校に通える喜びが「積水ハウスマッチングプログラム」の支援から始まっていることを知っています。ミャンマーの人々にかわり心から御礼申し上げます。



建設した大型深井戸に喜ぶミャンマーの子どもたち

「環境基金」助成団体コメント

「千葉県山武市蓮沼殿下海岸林の再生」

NPO 法人森のライフスタイル研究所 代表理事所長 竹垣 英信氏

「積水ハウスマッチングプログラム」の助成金で、津波の被害を受けて枯れてしまった千葉県山武市蓮沼殿下海岸林の再生を進めています。具体的には、枯れた木々を伐採・チップ化したものを敷きならし、海岸林の造成に適したクロマツを植樹します。植樹後は5年程度下草刈りを行い、植えた苗木の成長を促していきます。助成がいただけたことで、海岸林の林帯幅を広げることができ、海岸林としての機能が高まります。2013年以降、積和建設東関東株式会社の皆さんには、海岸林再生の活動の中で一番過酷な真夏の下草刈り活動と一緒に加わってもらい、大きな力となっています。千葉県九十九里浜の中で一番被害が大きかった蓮沼海岸林をこれからも一緒に再生してもらえたらうれしいです。



下草刈り活動に取り組むボランティア

「弁当の日」応援プロジェクトに参画

「弁当の日」は、献立づくりから、買い出し、調理、弁当詰めから片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身で行う取り組みです。弁当づくりを通じて「食の大切さ」「作る楽しみ」「作ってもらう感謝の気持ち」を創出し、子どもの感性、成長をはぐくみます。元小学校校長の竹下 和男氏が提唱した「弁当の日」の取り組みは、既に1700校以上の小中学校で実施されており、この取り組みを普及啓発するプロジェクトに、当社も応援企業として参画しています。

2015年9月には、グランフロント大阪で住ムフムラボ(第11回)住むコト講座『お弁当づくり』から学ぶ食育～食べ物大切さ、つくる楽しみ、感謝の気持ちを育む『弁当の日～』を開催。当日は、小学生が弁当づくりに挑戦し、別会場で「弁当の日」の提唱者である竹下 和男氏による講演会を開催しました。



子どもたちによる弁当づくり、講演会の様子

住空間 eco デザインコンペティションを開催

全国の建築・デザイン系の大学生・大学院生を対象に開催している産学共同コンペ「Real Size Thinking 住空間 eco デザインコンペティション」に2005年度から参画しています。今後の住空間の在り方を探るとともに、産学の連携強化、学生間の交流促進、若きデザイナーの育成を目的とし、関西・関東の2会場で実施。2015年度は全国37大学から154作品の応募がありました。



関西・最優秀賞「Waving Border」
京都芸工繊維大学大学院/
杉本 知也さん



関東・最優秀賞「Pop-up Shelter」
東京大学大学院/隈 太一さん、
石井 孝典さん、澁谷 達典さん、
島田 潤さん、滝口 雅之さん、
西里 正敏さん、蒔苗 寒太郎さん、
李 莉佳さん
早稲田大学大学院/有川 愛彩さん

環境教育プログラムの実施

地球温暖化防止や環境保全を推進するためには、次世代を担う子どもたちへの啓発活動も大切です。そこで、積水ハウスでは「エコ・ファースト企業」の三つの約束「CO₂排出量削減」「生態系ネットワークの復活」「資源循環の取り組み」をテーマに、体験型学習プログラムを実施しています。

地球温暖化と暮らしのかかわりを学ぶ学習プログラム「いえエコロジー」セミナー(2015年度は計23回実施、615人が参加)では、第9回キッズデザイン賞(子どもの未来デザイン 学び・理解力部門、主催:NPO法人 キッズデザイン協議会)を受賞しました。



「いえエコロジー」セミナーの様子

新梅田シティ「新・里山」「希望の壁」での教育貢献活動

本社がある新梅田シティ(大阪市北区)の公開空地内に「5本の樹」計画の考え方をもとに造成した「新・里山」(約8000m²)では、2007年から毎年、近隣の幼稚園、小学校と連携して、体験学習を実施しています。2015年度は地元の小学生など61人が米づくりを、また、幼稚園児64人がサツマイモ苗の植え付けとイモ掘りを体験しました。

敷地内に設けた世界最大の緑化モニュメント「希望の壁」でも年間を通じてさまざまなイベントを実施。この「希望の壁」を緑にあふれた癒やしの空間「バタフライ・ウォール」にしようという思いを込め、子どもたちの手によって、幼虫の食草となる柑橘系植物やキャベツの苗を「新・里山」に、蝶が蜜を吸えるよう花苗を「希望の壁」に植えています。



小学生による田植え